



# ほっと47号



<https://dokaren.com>

## \*\*\* 紋別新市長を表敬訪問 \*\*\*

- ・2025年8月18日(月) 紋別新市長を表敬訪問するため、中野渡道議(道家連顧問)・近藤会長・畠中事務局長の3名で新千歳空港7:55発→女満別空港8:30着のJAL便で出発
- ・女満別空港に到着すると、道東家族会の飯田会長と小谷事務局長が待機、合流して紋別市へ
- ・紋別市に到着すると、待機していたオホーツク福祉園のマイクロバスに乗り換え、上渚滑の両施設訪問に向かった

### <オホーツク福祉園、こまくさ学園、両施設の説明・見学>

- ・10:50～12:00
- ・オホーツク福祉園は、1983年に紋別市から25km離れた上渚滑に授産施設(定員50名)として設立され43年経過、こまくさ学園は、1993年に紋別養護学校卒業生の受け入れ更生施設としてオホーツク園の隣に設立され34年経過
- ・こまくさ学園は2人部屋であるが、オホーツク福祉園は2～4人の畳部屋で布団を敷いて寝ている状況、プライバシーも保たれていない
- ・数年前のコロナ集団感染をはじめ、感染症対策に苦慮し、施設内で高齢化が進む中、命を守る対策が急務
- ・利用者の高齢化が進み、通院及び入院の頻度が増し、緊急時は勿論のこと、紋別市までの通院が大変で、病院から近い場所への移転を利用者も保護者も強く求めている
- ・職員の9割が紋別市からの通勤者で、冬道での運転に危険が伴う
- ・施設職員のなり手が年々減少し、通勤時間の改善は人材確保の観点からも不可欠
- ・上渚滑にはセイコーマートがあるのみで、利用者の楽しみの一つである買い物ができない状況
- ・両施設とも、年々高齢化・重度化が進み、車椅子や歩行器を利用される方が増え続けているが、居室に入るには20cm程度の段差があり、車椅子の利用者は介助がなければ部屋に戻れない状態
- ・施設前方の牧草地及び国道から施設までの脇道で、通勤者が熊と出会うことがあり、警察に通報すると警察とハンターが来て見守るが、「気を付けて下さい」で終わってしまうのが現状



## <渚滑の新施設建設予定地を見学>

- ・両施設の見学を終え、新施設建設予定地へ出発
- ・3ヘクタールの高台敷地からはオホーツク海を見下ろせ、坂を下ると商店街・病院がある

## <施設関係者と道家連役員との交流会>

- ・12:25～14:30 紋別セントラルホテル
- ・出席者12名：古寺紋別市百年記念福祉会理事長、柴門オホーツク福祉園施設長、鈴木こまくさ学園施設長、八島こまくさ学園、課長、津田オホーツク福祉園家族会副会長、菅野こまくさ学園家族会会长、中野渡道議（道家連顧問）、梶川紋別市議、近藤道家連会長、畠中道家連事務局長、飯田道東家族会会长、小谷道東家族会事務局長

- （古寺法人理事長）今回の件で、道家連家族連合会には大変お世話になり感謝している。3年前の設計試算から見て、次回の建設費が2倍になり、次回の申請からは、紋別市からの援助金がなければ建設不能である。市の予算の有無が分かるまで時間が必要で、来年度の建設要請書は提出できない状況である。國の方針で、新築の場合は入所定員を減らさなければ許可されない状況にあるので、2024年度は両施設ともに1割減で申請した。減らした分はGHの設立でカバーしていく計画である。
- （近藤道家連会長）ひとつの施設を支援する活動は初めてであるが、組織力の大切さを知る機会となった。
- （中野渡道議）今年度は全道で16施設の申請があり、4施設に補助が出た。道は市長のあの意見書にもかかわらず国に申請を挙げたことは異例であるが、国での順位はかなり下になっていた。意見書の内容も勿論だが、紋別市全体で応援している姿勢が大切である。敵を作らず、みんなを味方にする努力が必要であり、そのことが建設を実現する最も早道である。
- （梶川紋別市議）私は施設訪問が初めてで、これを期に支援の力を増して行きたい。
- （鈴木こまくさ学園施設長）これまでの経緯の説明。
- （柴門オホーツク福祉園施設長）この度の件で道家連、道東家族会の大切さを強く感じた。
- （両家族会会长）今までの思いと今後の願い。過去には、いろいろなしがらみはあったとしても、利用者ファーストでなければ絶対駄目である。
- （畠中道家連事務局長）道家連の1年間の取り組みと、「ほっと41号」を提示しながら、道東家族会との関わりを説明。
- （小谷道東家族会事務局長）道東家族会の取り組み状況報告。オホーツク福祉園の家族会長から毎年苦しい状況を聞かされるが、道東家族会ではどうすることもができなかった。道家連に伝わってからは、中野渡道議と共に動きが明確になり、道家連に感謝している。
- （飯田道東家族会会长）本当に道家連会長、事務局長、顧問が紋別まで来てくれるとは思わなかった。この事実は、今後の建設支援に大きく関係してくると思う。

◆交流会参加の全員が発言し、今までの経緯や互いの思いや願いを確認し、今後に向けての取り組みの方向も見えてきて大変有意義で、午後からの市長表敬訪問への意気込みが感じられる交流会であった。



## <紋別市長を表敬訪問>

- ・15:00～15:45 紋別市庁舎にて
- ・市の出席者4名：山崎彰則市長、小林昌史副市長、仲條憲明保健福祉部長、檜山博克保健福祉課長
- ・訪問者12名：交流会出席の全員



- (道家連会長挨拶) 今回の役員訪問の経緯。
- (理事長挨拶) 今までの経緯と今後に向けてのお願い。
- (道議会議員・道家連顧問) この2年間の道の動きについて。
- (両施設長) 利用者の現状及び施設運営について。
- (両家族会会长) この8年間の親の思い・願いについて。
- (道家連・道東家族会 両事務局長) 本日の施設訪問で大部屋での利用者の生活の大変さや職員の9割が紋別市から通勤する大変さがよく理解できた。
- (紋別市長) 本日は家族会からのお話を聞きすることが主で、建設に対する市側の回答はこの場ではできない。しかし、建設がこのままの状態でよいとは決して考えていない。

◆施設の現状、利用者の様子、今回までに10年経過していること、道家連の支援の経緯、中野渡道議の支援の経緯、訪問者12名全員が、それぞれの立場で経緯や思いや願いを発言し、新市長や市の職員に、皆で出向いた意義は伝わったと思う。

## <女満別空港へ>

- ・紋別発16:30→女満別空港着18:10→空港発19:10→札幌丘珠空港着20:00

### ◆紋別市 新市長誕生

2025年6月15日、紋別市の選挙で新人の元市議会議員の山崎彰則氏（57歳）が、現職の宮川良一氏（71歳 5期在任）を破り、初当選

### ◆両施設の移転建設設計画の経緯

- ・2015年10月に開催された「オホーツク福祉園家族会総会」で「今どき、4人の相部屋の施設などどこにもない。終の棲家となりうる個室を中心とした施設を紋別市に立て替えてほしい。」と要望が出され、それ以来何回か移転設立の提案を理事会に提出されたが、上渚滑から出て行くことはまかりならないという理由から否決されていた
- ・2022年8月、理事会でも移転建設が認められ、初めて振興局に「建設申請書」を提出したが、振興局で不受理、その理由は申請書の中の市長の意見書が移転建設に否定的であったためである
- ・2023年8月、宮川市長は家族会の代表と初めて会ってくれ、その場で市長に新移転地で建設を促す意見書を是非とも書いてほしいことを訴えた
- ・2023年9月、「財界さっぽろ10月号」に両施設移転に関わる宮川市長の立つ位置が詳しく掲載された
- ・2023年11月20日、両家族会代表は、紋別地域を中心に3,600名の嘆願署名を集め市長に手渡し、両施設における利用者の大変さを訴え、それと同時に道家連及び道東家族会連合会の施設新築移転嘆願書を飯田道東家族会会长が代表して市長に手渡した
- ・両家族会が集めた新築移転嘆願署名を市長に手渡したこと、道家連及び道東家族会連合会の嘆願書を手渡したことが地元紙「民友新聞」（2023年11月23日付）と「道新」（11月28日付）に掲載された
- ・2024年8月、3回目の施設建設申請書を振興局に提出、宮川市長の意見書は相変わらず否定的であったが振興局は受理し、道に挙げてくれて、道は国にも挙げてくれた
- ・2025年8月、振興局から国の支援を得ることができなかった旨の連絡が入り、市長の意見書が積極的なものでなければ、国や道が認可することは不可能なようである



## 訪問を終えて

今回訪問のきっかけは「紋別市百年記念福祉会」が運営する両施設が改築時期に来ていって、数年前から利用者のために移転・新築の計画が進められ、個室化や生活環境の向上実現に向けて努力されていること、なかなか具体的に進んでいないことを道東家族会の飯田会長を通じてお聞きした2年前のことです。

私たち道家連でも、家族が強く望み続けている気持ちが伝わってきて、なんとか早く実現に至ればと願っており、微力ながらも道家連として力になればと思っておりました。

そんな中、新市長に表敬訪問できる機会をいただいたので私どもも応援団として同行させていただきました。

午前中に両施設の見学もさせていただき、利用者さんの笑顔や支援員さん方の献身的な支援の様子なども見せていただき、計画の早期実現を願う気持ちを一層強くしました。

昨今の知的障がい者や支援施設を取り巻く環境は、少子高齢化の影響による支援人材の不足や物価高騰の影響など厳しい状況です。特に移転新築に伴う建築費の急激な高騰は今後の施設運営においても大きな影響が考えられます。

そんな中で行政が進めている地域移行の取組み、入所施設の在り方についての今後の課題など私たち家族としても将来に向けての不安は多い状況で、今まで以上に運営施設の方々や行政・関連団体との交流・意見交換が必要と感じております。

私たち道家連も利用者の生活向上を目指し微力ながらも役に立つ活動に結びつけられればと思う次第です。

2025年8月  
道家連会長 近藤

